

2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人かぶかぶ山のようちえん
 代表者・役職名 氏名 代表理事 小川佳那恵

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権に問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

子育ての不安・負担に寄り添い和らげる親子自然体験の提供

2. 団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

2017年4月から青梅市にて、代表が地縁のない土地での双子の育児に苦労した経験から、子育て世代が、地域で自然と人につながる場が必要と感じ、立ち上げました。2021年は月11回の自然体験教室を実施。対象は0歳～未就学児の親子。開催場所は主に青梅市（一部八王子市）が主だが、参加者の住まいは近郊市町村から、遠くは墨田区・台東区・神奈川県・千葉県・新潟県・静岡県からの参加もあります。年間約2000人、延べ約1万人の親子が参加しています。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可） 250文字程度まで

現在提供している自然体験事業により、自然の中で楽しさ、心の安らぎを感じながら親子が育ち合う場を提供し会員からも一定の評価を得ていますが、行動の予測が難しい子ども、多胎児親子等へのサポートや不安・負担を抱える方への寄り添い方など困りごとを抱える親子に対して十分に対応できていない面があります。包括的に受け入れる体制を整備するため、①多胎児やきょうだい親子が安心して自然体験事業に参加するためのサポーター制度、②困りごとへ寄り添い親子が育ち合う拠り所となる居場所事業を新たに立ち上げます。また、上記の取組を安定的に運営するため、児童の発達、自然環境教育等に関する職員の研修を実施するとともに、資金管理体制を整備します。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度まで

①多胎児やきょうだい親子が安心して自然体験事業に参加するためのサポーター制度

現在、自然体験中のこどもの見守りは親が行うことを前提としていますが、親一人では見守りが難しい多胎児や活発な上の子がいるきょうだい親子に対し、マンツーマンでのスタッフの見守りを提供します。

②困りごとへの寄り添い、育ち合いの場の企画・運営

・さとやまおしゃべりひろば（親子向けに畑作業をしながらおしゃべりする場、月1回、青梅市の弊団体事務所にある畑で開催、現在、老朽化したブロック塀で囲まれている箇所があることから、セルフビルドで木製の柵を設置するワークショップを開催）

・夜カフェ（親向けのオンラインでの子育てトークと保育の学びの場、子育て本の輪読会など、月1回子ども寝かしつけ後の時間に開催）

上記2事業を安定的に運営するため、児童の発達、自然環境教育、支援者管理システム等に関する職員研修を実施し、資金管理体制を整備します。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果：実施回数 参加者数

サポーター制度 延べ13組（うち無償ボランティアによる実施6組、目標36組）

夜カフェ 延べ52人（12回）（目標100人）

さとやまおしゃべりひろば 延べ51組118人（15回）（目標100組）

柵ワークショップ 33人

成果：サポーター制度によりきょうだい・ふたごの親子の継続的な参加への支援が可能となりました。夜カフェは、妊娠中や出産直後などでも参加可能な子育ての様子や悩みを分かち合う場となりました。ひろばは、畑作業を通じて乳幼児から小学生まで新たな異年齢交流の場となり、地域のフードパントリーとしても活動しました。

また、研修により、スタッフの自己認知・対話、自然観察、野外活動支援スキルの向上が図られました。

効果（社会的な変化）：自然豊かな青梅という立地を生かし子育ての不安・負担を和らげるための新たな事業を立ち上げた事により、地域に根差した子育て支援の充実につながりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

課題：サポーター制度については、想定利用者は保護者複数での参加が多くコロナの影響もあり予想より利用者が少なかったこと、利用の際の金銭負担、サポーターとの相性による心理的負担などから、利用が伸びませんでした。夜カフェは生活リズムの違いなどから、想定より参加者は下回りました。ひろばは、学期中は参加が少ないという傾向がありました。

今後の展望：サポーター制度は、来年度も利用要望があることから、制度は継続し、利用者負担の軽減に向けた環境を整備します。

居場所事業は、需要に応じて時期と回数を変更し、寄付なども活用し継続運営します。

また、本事業を期に若者世代のボランティア 5名の参加があり、多世代での交流を活かして団体の事業を運営します。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

